

### 平安女学院がマスコミに報道されました！！

#### 有栖館 春の特別公開

わかさ生活WEBサイト 2015年3

#### 京都を彩る建物と庭を巡る〈11〉

### 有栖川宮旧邸

(平安女学院大学「有栖館」)  
京都市上京区烏丸通下立売北西角

有栖川宮家は「四親王家」の一つであり、9代・織仁親王が新政府の総裁となり、東征大総督も務めたことも高い。現在、平安女学院大学の教育施設「有栖館」として伝統文化の継承・発信の拠点となっている有栖川宮旧邸を訪ね、学校法人平安女学院のスーパーバイザー・竹永基二氏に取材した。

7皇子・好仁親王。当初は祖母・新上東門院の御所高松院に因んで高松宮と称した。2代目を継承した良仁親王は後明天皇の後に繼いで後西天皇となり、幸仁親王に高松宮を継がせた。特筆すべきは、6代・織仁親王の嫡子・善子王女は12代将軍・徳川家慶の正室となり、善子女王は徳川斉昭の正室として徳川慶喜を生んでいる。さらに、幕末維新に活躍した9代・織仁親王は新政府の総裁として東征大総督を務め、その時の軍歌「宮さん、宮さん、お馬の…」の「宮さん」は有栖川織仁親王といわれている。しかし、10代・織仁親王の没後、1928(大正12)年の憲子親王妃の薨去により有栖川宮家は断絶。祭祀は高松宮家に継承された。

江戶初期に創建された宮家

かつて有栖川宮の邸宅は京都御所の北東に位置する猿ヶ辻にあった。その後、1862(文久2)年の御所用地の拡大のために、建礼門前に移転。現在は、「有栖川宮邸跡」と刻まれた碑のみが遺されている。明治維新を迎えて親王が東京へ転住された翌年の1873(明治6)年からは、京都裁判所の仮庁舎として使用。1891(明治24)年に現在地に移築後、京都地方裁判所所長の官舎を経て2008(平成20)年以降は平安女学院大学の教育施設「有栖館」として伝統文化の継承・発信の拠点となっている。

また、有栖川宮家は江戸初期の1625(寛永2)年に創設された「四親王家」の一つで、初代は107代・後醍醐天皇の第

かれた平唐門で、大正時代を象徴する門建築である。1912(大正元)年に三井一族総長の三井高保氏が邸宅の表門として新築。「青天門」の名称は祇園・白川沿いにある「かにかに…」の歌碑でも名高い歌人、吉井勇が李白の詩から名づけたという。白い漆喰塗りの「長屋門」は、江戸時代に見られる大名の武家屋敷門の中でも威風を誇り、両側が長屋になっている。

内部の書院造りの和室「客間」は広さが12畳。床の間と付書院を備えた2畳の「上段の間」にも公家屋敷の風範が際立つ。隣には「能舞台」と呼ばれる15畳の「板間」がある。庭園は玄關庭園・書院庭・中庭があり、いずれも造園「植治」11代・小川治兵衛の作庭である。玄關庭園のしだれ桜は、豊臣秀吉が1598(慶長3)年に龍興寺三寶院裏の山荘で催した「龍興の花見」の縁にあり、堂本印象画伯の発案で移植したものである。書院庭は石組や飛石、植栽に白砂が映える枯山水。中庭には雲型壇があり、源氏物語千年紀に因んだ藤袴などが季節を彩る。ちなみに、主屋・青天門・長屋門は国の登録有形文化財である。

国の登録有形文化財に指定

「有栖館」は建礼門前に建てられた旧邸の公家屋敷に武家屋敷を加えた2つの様式から成り、玄關棟・住居棟・客間棟で構成されている。烏丸通りに面した豪壮な表門は「青天門」と称し、銅板と真鍮板で葺

平成27年 春の特別公開

日程：4月3日(金)～7日(火)  
時間：10:30～16:30  
(最終入館 16:00)  
入館料：大人500円 / 大学生200円  
高校生以下無料  
問合せ：学校法人平安女学院  
広報課  
TEL 075-414-8154  
〒605-0855 京都市上京区一乗寺(春・秋)に合わせて特別公開の予定です。

#### 京都を彩る建物と庭 有栖川宮旧邸 「有栖館」

京都館ニュース 2015年3月号)